

町村週報

(町村の購読料は会費)
(の中に含まれております)

3195号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 武居丈二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>

阿蘇の野焼き(熊本県)

寒い冬がようやく終わったかと思われた3月中旬、(公財)阿蘇地域振興デザインセンターの地域づくりセミナーの講師として5年半ぶりに阿蘇を訪れることができた。阿蘇は世界最大級のカルデラとその中の活火山で早くから大観光地となってきたが、その周りがわが国最大の牧草地となっていたことが、世界に二つとない風景をつくってきた。そして野焼きの後の黒い草原に出会えるのがこの時期なのである。2016年の地震で寸断された交通網はようやく改善されたが、昨秋には噴火で入山できなくなるなど、被害も続いた。今は噴火警戒レベルが2となり、草千里までは行くことができ、噴煙と白っぽい噴出物を見ることができた。

このデザインセンターは1990年、熊本県と当時の阿蘇郡12町村の出捐によって、阿蘇環境デザインセンターとして設立されたもので、96年からは事務局長を全国公募とし、地域プランナーとして阿蘇郡小国町にかかわっていた若井康彦氏が就任した。小国町が宮崎暢俊町長のもとで、小国ドームなど悠木の里づくりで全国に名を馳せていた時代である。当時12もの町村で連携して財団をつくることは例がなく、支えた熊本県の英断には敬意を表したい。98年には改称し、2013年

には公益財団法人となった。若井事務局長は着任後出捐金の増額に尽力するとともに、冬の阿蘇が死んでいることに気づき、「冬の阿蘇をつくる」と町村に呼び掛け、いくつものフォーラムやイベントを企画した。小国町の縁で親しくなった筆者もたびたび呼んでもらった。センターには各町村から交代で職員が派遣されるようになり、今も3名が勤務している。若井氏の指導で世の中をいかに動かすかを学び、町村役場に帰って地域づくりに活躍した職員を、筆者は何人も知っている。今やこのような派遣による人材育成は当たり前になっているが、当時は極めて先駆的な動きであった。

その後合併で1市7町村の体制となった。この6年間の事務局長は、かつて小国町の木魂館を根城に九州ツーリズム大学の運営などで名を馳せた江藤訓重氏であり、この間熊本大学との連携協定の締結、あそフラワーツーリズムの推進、阿蘇地域観光地域リーダー育成講座や阿蘇未来創造塾の開催、阿蘇の大自然を歩くフットパスの設定など、斬新な取組みにチャレンジしてきた。氏は3月で任期を終えるようだが、世界に二つとない大阿蘇の風景のもとでの地域連携のますますの発展を期待せずにはいられない。

コラム

偉大な風景のもとでの地域連携 ー阿蘇地域振興デザインセンターー

早稲田大学名誉教授 宮口 侗 廸

もくじ

● ● ●
随 情 フ 政 活
想 報 フ ォ 策 動
ー ー ー
ル ム 策 動

「特別決議」人口減少の時代に地方の声を国政選挙に反映させるために」
の実現に向けて荒木会長が要請活動……………(2)
つなく棚田遺産「ふるさと」の誇りを未来へへの取組について……………(3)
ひとがつながりひとがつどつ世界に誇れるまち 有田……………(7)
「有田の町が教室になる」〓佐賀県有田町……………(10)
町村ご当地キャラしまん……………(11)
想つこと……………(11)

愛媛県久万高原町長 河野 忠康

(11) (10) (7) (3) (2)

写真募集

表紙に掲載する写真を募集しています。採用者には、図書カード(3千円)を差し上げます。写真には撮影者の住所、氏名及び撮影場所・日時を明記して下さい。なお、採否は当方に一任願います。送り先：全国町村会・広報部

自由民主党



▲高市政調会長（左）に要請する荒木会長（右）



▲逢沢選挙制度調査会会長（左）に要請



▲橘選挙制度調査会事務局長（左）に要請

※特別決議の内容については、本会HP (<https://www.zck.or.jp/>) をご覧下さい。

「特別決議」と強調。この問題の根底にある地方から東京への人口流出に歯止めをかけ、「地方分散型の国づくり」を強力に推進すること、今後更なる拡大に町村が強い危機感を持っている参議院合区について憲法改正も含め早急な解消を実現することを要望した。

全国町村会

「特別決議」人口減少の時代に地方の声を国政選挙に反映させるために」の実現に向けて荒木会長が要請活動

全国町村会は、このたび「特別決議」人口減少の時代に地方の声を国政選挙に反映させるために」をとりまとめ、3月25日、荒木泰全全国町村会長（熊本県嘉島町長）が高市早苗自民党政務調査会長、逢沢一郎自民党政務調査会選挙制度調査会会長及び橘慶一郎自民党政務調査会選挙制度調査会事務局長に面会し、

決議内容の実現方を要請した。

特別決議は、現在、内閣府衆議院選挙区画定審議会で衆議院小選挙区の区割り改定案（いわゆる「10増10減」問題）の策定作業が進められていることや参議院合区の状況等に関し、地方の定数が大きく減少すること、地方の声がこれ以上国政に届かなくなること、に町村が強い危機感

を持つていることなど、現場の声や意見を踏まえとりまとめたもの。

特別決議では、町村をはじめ地方が果たしている役割の重要性を強調するとともに、地方創生を推進し、地方の人口減少に歯止めをかける必要があることや「参議院の合区解消」を実現すること等を強く求め、人口減少・少子高齢社会における我が国

の持続可能性を追求しなくてはならないと訴えている。

要請活動で荒木会長は「衆議院小選挙区の区割り改定案は、一票の較差は正等憲法との関係を含め困難な課題があることは承知しているが、特別決議の内容は地方自治体の中で一番影響を受ける全国の町村の強い思い、危機感として受け止めていただきたい」と強調。この問題の根底にある地方から東京への人口流出に歯止めをかけ、「地方分散型の国づくり」を強力に推進すること、今後更なる拡大に町村が強い危機感を持っている参議院合区について憲法改正も含め早急な解消を実現することを要望した。

政 策

つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～の取組について

農林水産省 農村振興局農村政策部地域振興課

1 はじめに

日本の棚田の多くは、長い歴史を有し、国民への食料供給にとどまらず、国土の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承等に大きな役割を果たしてきました。こうした多面的な機能を有する棚田について、その保全活動を推進すること等を目的として、農林水産省は、平成11年に、優れた棚田134地区を「日本の棚田百選」として認定しました。しかしながら、棚田地域の現状は厳しく、担い手の減少や農家の高齢化等により従来のような保全活動が難しくなり、棚田は荒廃の危機に直面しています。

このような現状を捉え、令和元年には、待望の棚田地域振興法が施行され、その趣旨に基づき、着実に、棚田地域の振興に向けた取組が広がっています。

そこで、農林水産省では、棚田地域の振興に関する取組を積極的に評価し、国民の皆さまに、棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能に対するより一層のご理解とご協力をいただくことを目的として、改めて優良な棚田を認定するポスト棚田百選の取組として、「つなぐ棚田遺

産～ふるさとの誇りを未来へ～」を実施しました。

2 ポスト棚田百選の名称について

本取組を広く周知するために、以下の3つの条件を満たす名称を公募しました。

- ①維持・保全等の努力の上に成り立つ優れた棚田を評価する趣旨を表す名称
- ②選定されたことで、棚田を維持・管理する人が勇気づけられる名称
- ③棚田を身近に感じられる親しみやすい名称

農林水産省のホームページの応募フォームを設け、1か月間募集を行ったところ、全国から473件もの応募がありました。

応募された名称は、「つなぐ」などの文言を含む将来への継承や希望をイメージさせるものや「日本」という文言を含む日本人の心や日本の原風景、日本の自然などをイメージさせるもの、「ふるさと」や「故郷」などの文言を含む懐かしさを感じさせるもの、「遺産」などの文言を含む時代や歴史の移り変わりを感じさせるものが多数を占めていました。外部有識者からなる委員会での議論

つなぐ棚田遺産募集のポスター

農林水産省は、ポスト棚田百選の取組として「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」の推進を募集しています。あなたの周りの素敵な棚田を推薦してください。

募集期間：令和3年11月15日～12月15日

詳しくはこちら ▶

選ばれし棚田は美しい。

つなぐ棚田遺産
～ふるさとの誇りを未来へ～

農林水産省

オフィシャルリポーターの募集について
詳しくはこちら ▶

問合せ先 農林水産省 農村振興局 農村政策部 地域振興課
〒100-8505 東京都千代田区千代田1-2-1 電話 03-6744-2081

主催：農林水産省 後援：内閣府、総務省、文化庁、国土交通省、観光庁、環境省

政 策

したところ、取組の名称として「ふさわしいもの」として「つなぐ棚田遺産」に決定されました。「つなぐ」という文言には、「未来へ引き継ぐ」という意味や「人と人をつなげる」という意味が込められています。

3 選定基準について

つなぐ棚田遺産の選定基準は、外部有識者からなる選定委員会において、日本の棚田百選の選定基準を踏まえつつ、令和元年に施行された棚田地域振興法の基本理念の視点を加え次のとおり設定されました。

日本の棚田百選の選定基準は、

①次の要件を満たす棚田であること。

・積極的な維持・保全の取組がなされ、今後もその取組が継続される見込みがあること。

・原則として1ha以上の団地を構成していること。

②次の項目のいずれかが優れた棚田であること。

- ・国土の保全
- ・生態系の保全
- ・景観
- ・伝統・文化

棚田地域振興法第三条の基本理念は、

①棚田地域の振興は、棚田地域の有する多面にわたる機能（農産物の供給、国土の保全、水源の涵養、生物の多様性の確保その他の自然環境の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承等）が維持されるよう、棚田等の保全を図るとともに、棚田地域における定住等及び国内外の地域との交流を促進することを旨として、行われなければならない。

②棚田地域の振興に関する施策は、農業者、地域住民等による自主的努力の助長及び多様な主体の連携・協力の促進を旨として、講ぜられなければならない。

とあります。

そこで、つなぐ棚田遺産の選定基準は以下のとおりとしました。

①次の要件を満たす棚田であること

・積極的な維持・保全の取組がなされ、今後もその取組が継続される見込みがあること

・原則として、勾配が20分の1以上の一団の棚田が1ha以上あること

・棚田を含む地域の振興に係る取組に多様な主体・多世代が参加していること

②次の項目のいずれかに関する取組

- ・優れた棚田であること
- ・農産物の供給の促進
- ・国土の保全、水源の涵養
- ・自然環境の保全
- ・良好な景観の形成
- ・伝統文化の継承
- ・棚田を核とした地域の振興

表1 つなぐ棚田遺産選定一覧

北海道	3棚田	神奈川県	1棚田	滋賀県	7棚田	徳島県	5棚田
青森県	1棚田	新潟県	36棚田	京都府	4棚田	香川県	4棚田
岩手県	3棚田	富山県	5棚田	大阪府	5棚田	愛媛県	5棚田
宮城県	2棚田	石川県	7棚田	兵庫県	7棚田	高知県	4棚田
秋田県	1棚田	福井県	2棚田	奈良県	2棚田	福岡県	5棚田
山形県	9棚田	山梨県	2棚田	和歌山県	8棚田	佐賀県	10棚田
福島県	3棚田	長野県	15地区	鳥取県	3棚田	長崎県	9棚田
栃木県	2棚田	岐阜県	9棚田	島根県	11棚田	熊本県	17棚田
群馬県	1棚田	静岡県	9地区	岡山県	7棚田	大分県	10棚田
埼玉県	1棚田	愛知県	2棚田	広島県	4棚田	宮崎県	13棚田
千葉県	2棚田	三重県	3棚田	山口県	8棚田	鹿児島県	4棚田

4 選定・認定について

つなぐ棚田遺産の募集をしたところ、全国から多数の推薦がありました。令和4年2月14日に開催された外部有識者からなる選定委員会において、これらを選定基準に基づき審査したところ、271棚田がつなぐ棚田遺産として選定されました（表1・図1参照）。

また、つなぐ棚田遺産の取組周知

図1 つなぐ棚田遺産選定



政 策

図2 ロゴマーク



を図るために、「つなぐ棚田遺産」ロゴマークを作成しました（図2参照）。ロゴマークは、山間部に位置する「棚田」を「山」と「稲穂」をイメージしたイラストで表現するとともに、日本を象徴する「日の丸」と掛け合わせたデザインとしています。つなぐ棚田遺産に選定された地域の皆さまに、幅広く活用いただきたいと考えています。ロゴマークの使用にあたっては、農林水産省ホームページに掲載している使用規約をご確認ください。

なお、選定された棚田地域をより一層盛り上げるために、つなぐ棚田遺産の選定に合わせて、令和4年2月15日から4月14日まで、首都圏のアンテナショップを核にして、棚田を一斉に周知するとともに棚田関係

図3 金子農林水産大臣による祝辞



の産物を展示・販売する取組を14県13のアンテナショップ等で実施しています。

さらに、選定された棚田は、令和4年3月25日につなぐ棚田遺産認定式（WEB）を開催し（図3参照）、農林水産大臣名での認定証を授与しました。

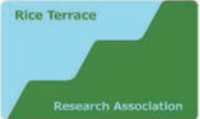
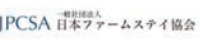
5 オフィシャルサポーター制度について

つなぐ棚田遺産の取組を、企業、団体等の多様な関係者とともに幅広く周知するとともに棚田地域の振興に資する取組を促進するため、「つなぐ棚田遺産」オフィシャルサポーター制度を創設しました。オフィシャルサポーターとして活動する企

業等は、次のいずれかの取組を通じてつなぐ棚田遺産に関する周知活動等を実施することとしています。

- ① 企業等のWebページ、SNS、広報誌、ポスター等への情報掲載
- ② 棚田に関する広報資料の配布・掲載

表2 オフィシャルサポーター一覧（令和4年3月15日時点）

 アクセリア（株）	 国富梅園（株）	 クラブツーリズム（株）	 （株）ココロメディアデザイン	 さとふる（株）さとふる
 （株）時事通信社	 棚田学会	 認定NPO法人 棚田ネットワーク	 「小さな親切」運動 静岡県本部	 （一財）日本グラウンドワーク協会
 （株）日本農業新聞	 （一社）日本ファームステイ協会	 （株）Heart Full	 （株）百戦錬磨	 （株）宮崎梅田学園

政 策

示、アナウンス等

③各種イベント、セミナー、学会、講座、研修等での紹介等

④企業のCSR活動やSDGsへの取組

⑤その他、棚田の有する多面的機能や棚田地域の優良な活動についての周知など棚田地域の振興に資する取組

オフィシャルサポーター制度は、令和3年11月15日から令和4年9月末までの募集期間に申請を行い、地域振興課長の認定を受けた企業等はオフィシャルサポーターとしての活動を行います。

令和4年3月15日時点で15の企業等をオフィシャルサポーターに認定しています（表2参照）。認定した企業等は、ふるさと納税に関する企業や観光・旅行者、メディア等多岐にわたります。

例えば、ふるさと納税を取り扱うオフィシャルサポーター企業は、「棚田特集」として、ふるさと納税を活用して棚田を応援する取組を行っています。棚田の特徴や保全の取組、事業者のメッセージとともに、棚田米や日本酒、棚田オーナーやサポーターになることで農業体験ができるお礼品などを紹介する取組を行っています。

また、旅行サービス業を行うオフィシャルサポーター企業は、自社の宿泊予約サイトにおいて、「宿泊×棚田特集」として、棚田地域で農業体験ができる宿やホストによるガイドツアーを楽しめる宿など、棚田のさまざまな魅力を体感できる宿泊施設を紹介しています。

オフィシャルサポーターの取組は、農林水産省ホームページで紹介しています。

6 おわりに

棚田地域は、人口減少や高齢化など、依然として課題を抱えています。今回のつなぐ棚田遺産認定が、棚田地域の活性化につながるよう、引き続き、広報活動等に取り組んでまいります。

全国町村会をはじめ、関係町村の皆さまにおかれましては、棚田地域の振興について、引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

【担当者・連絡先】

（担当者）

農林水産省農村振興局農村政策部
地域振興課 堂元係長

（連絡先） 03-6744-2081

都道府県別市町村数

（令和4年4月1日現在）

都道府県	町	村	町村計	市	計	都道府県	町	村	町村計	市	計	都道府県	町	村	町村計	市	計
北海道	129	15	144	35	179	富山県	4	1	5	10	15	岡山県	10	2	12	15	27
青森県	22	8	30	10	40	石川県	8	0	8	11	19	広島県	9	0	9	14	23
岩手県	15	4	19	14	33	福井県	8	0	8	9	17	山口県	6	0	6	13	19
宮城県	20	1	21	14	35	長野県	23	35	58	19	77	徳島県	15	1	16	8	24
秋田県	9	3	12	13	25	岐阜県	19	2	21	21	42	香川県	9	0	9	8	17
山形県	19	3	22	13	35	静岡県	12	0	12	23	35	愛媛県	9	0	9	11	20
福島県	31	15	46	13	59	愛知県	14	2	16	38	54	高知県	17	6	23	11	34
茨城県	10	2	12	32	44	三重県	15	0	15	14	29	福岡県	29	2	31	29	60
栃木県	11	0	11	14	25	滋賀県	6	0	6	13	19	佐賀県	10	0	10	10	20
群馬県	15	8	23	12	35	京都府	10	1	11	15	26	長崎県	8	0	8	13	21
埼玉県	22	1	23	40	63	大阪府	9	1	10	33	43	熊本県	23	8	31	14	45
千葉県	16	1	17	37	54	兵庫県	12	0	12	29	41	大分県	3	1	4	14	18
東京都	5	8	13	26	39	奈良県	15	12	27	12	39	宮崎県	14	3	17	9	26
神奈川県	13	1	14	19	33	和歌山県	20	1	21	9	30	鹿児島県	20	4	24	19	43
山梨県	8	6	14	13	27	鳥取県	14	1	15	4	19	沖縄県	11	19	30	11	41
新潟県	6	4	10	20	30	島根県	10	1	11	8	19	合 計	743	183	926	792	1,718

フォーラム

▶コロナ禍前、多くの人でにぎわう「有田陶器市」

現地レポート

町村独自のまちづくり



ひとがつながり
ひとがつどう
世界に誇れるまち
有田
「有田の町が教室になる」



▲400年以上の歴史をもつ有田焼

有田町は、佐賀県の西部に位置し、伊万里市、武雄市、長崎県佐世保市、波佐見町に隣接する佐賀県の西の玄関口です。

有田町の人口は19,010人、世帯数は6,981世帯（令和2年国勢調査）、面積は65・85km²で、県内の主要幹線である国道35号が東西に横断

有田町の概要（紹介）

佐賀県
あり た ちょう
有田町



▲国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「有田内山」

し、福岡都市圏と結ぶ国道202号が南北に縦断しているほか、北西部に国道498号が通っています。またJR佐世保線が東西に横断し、伊万里市と有田町を結ぶ松浦鉄道が南北に通っています。

古くから陶磁器の町として有名な有



フォーラム



▲日本磁器発祥の地のシンボル「泉山磁石場」

田町は、1616年に朝鮮人陶工李参平らによって泉山に陶石が発見され、日本で初めて磁器が焼かれました。以来、佐賀藩のもとで磁器生産が本格化し、谷あいには「有田千軒」と呼ばれる町並みが形成され、繁栄を極めました。

この町並みは、現在も歴史的価値が高い建物が数多く残っており1991年に、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されています。

一方で、有田町は「棚田」という特徴的な景観を持つ稲作地であり、県下有数の畜産地でもあります。有田焼の「器」と農業の「食」両方の魅力を堪能できる有田町。伝統と歴史、豊かな自然を活かした町づくりに取り組んでいます。



▲日本の棚田百選に選定されている「岳の棚田」

なぜ有田町でSTEAM教育なのか

コロナ禍において日々行政運営にあたっています。そのような中、今までには常識とされたことが、ある日を境に非常識となりました。さらに先が見えない、答えがわからないことが増大したことを痛感しました。今までの考え方、思考では及ばないのでは、と強く感じ、この状況をチャンスに変えるには、新しい教育手法、「STEAM（スチーム）教育」を取り入れることが必要だと考えました。Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Arts（リベラルアーツまたは芸術）、Mathematics（数学）を統

合する教育手法である、STEAM教育を推進し、次世代型人材育成を目指します。A（アート）の部分は既存の科目だけでなく、Athletic、Areaなど、有田町の多様な「A」と考えられます。

今後はさまざまな分野においてデジタル化が進みます。課題解決の手法を自ら考え、導き出すことができる人材の育成が必要となるため、有田町の持っている風土、ものづくりの遺伝子などを活かしたSTEAM教育を推進していきます。その中で、野山で自然を体験し、モノを作り、プログラミングで学び楽しむなど、多様な体験を実践することで次世代に対応できる子育て・人材育成支援体制の確立を目指します。また、学校教育だけではなく、町全体が教室となる生涯学習を通して、町民一人ひとりが学ぶ楽しさを実感できる有田町を目指します。

有田町STEAM教育の今後

有田町ではSTEAM教育推進において、国立大学法人佐賀大学と連携した取組を進めています。令和2年度には、佐賀大学有田キャンパスにて町内の中学生女子によるリケジョ（理系女子）体験講座を開催しました。ミヨウバンからの結晶づくり（科学）と、植物を用いたリースづくり（芸術）を融

合させた、科目横断的なSTEAM教育の実践講座となりました。

また、有田町では数年前から町内の小学6年生を対象に「ルーツ」について学ぶ事業に取り組んできました。ルーツである自分のご先祖及び家族、地域などについて、約半年間をかけて研究し、本格的な発表をする事業です。先人たちが残してこられた数々の功績や多くの苦労話などを調べることで、有田町に育つことを誇りに思う子どもたちの育成を推進しています。当事業では児童自らがパソコンやプロジェクターを使用し、昔の映像や音楽等も活用して、本格的なプレゼンテーションに取り組んでいます。どのような手法を用



▲佐賀大学と連携したリケジョ（理系女子）体験講座

フォーラム

いれば、自分の気持ちを、より多くの人に伝えられるかを学んでいます。まさに有田らしいSTEAM教育だと考えております。

そのような中、自治体もあらゆる分野で、デジタル化の推進が求められています。有田町ではフューチャリストの小川和也さんと共に「有田みらいタウン」構想を発表しました。デジタルと並走して有田の文化や風土が共存する「デジタル化と心身がとこのう」ことがコンセプトです。小川さんには有田みらいタウンの「タウン長」として取組全般に助言などをいただいています。今後、有田みらいタウン構想において、さまざまな取組を計画しています。柱の一つとしてSTEAM教育を推進し、次世代型人材育成を目指します。

今年度、まずSTEAM教育を身近に感じてもらうよう、プログラミング



▲「有田みらいタウン」タウン長を任命



▲しぐみデザイン協定式（オンラインにて）

グ体験や動画作成体験のワークショップを開催します。STEAM教育に関する数多くの実績と国内有数のノウハウを有するSTEAM JAPANと連携し、専門講師による充実の指導体制のもと、クリエイターとしての活動を一体験してもらいます。デジタル作品を完成させるドキドキ・ワクワクを、参加者に学んでいただく予定です。

このワークショップにおいては、「スプリング」というプログラミングツールを使用します。文字を使うことなく、初めての方でも気軽にプログラミングできるため、今回は町内の小学生を対象としています。

このスプリングを開発された、株式会社しぐみデザインと有田町が、令

和4年2月3日に、「STEAM教育実践についての連携協定」を締結しました。今後町内の社会教育を中心に、スプリングを活用したSTEAM教育の実践に連携して取り組む予定です。

「有田の町が教室になる」

有田町には保育所・認定こども園をはじめとして、小学校、中学校、有田工業高校、そして佐賀大学有田キャンパスもあります。人口約2万人の町として非常に充実した子育て支援体制が整備されています。「アカデミックなまち」「本物の芸術に触れるまち」として、まさに有田町全体が教室となり、子育て世代もさらに住みやすいまちづくりを目指します。

県外生徒受け入れによる地域活性化

有田工業高校には有田町らしいデザイン科・セラミック科があり、電気科・機械科の4科があります。まさにSTEAM教育の要素を兼ね備えた高校です。令和4年度新規の取組として「地域みらい留学」を実施予定です。佐賀県外から親元を離れて入学される生徒の生活支援を、佐賀県と連携して実施します。有田工業高校には学生寮がなく、下宿先物件の確保や、部活動が終った時間にも食事可能な環境が必要

でしたが、町民皆さまのご協力により、高校生応援飲食店の募集など新入学生を迎える体制が整いました。県外から有田町に来られる、意欲的な学生ならではの画期的なアイデアなどを期待しております。今回の事業を機に、有田町全体のにぎわいづくり、学校の魅力づくり及び地域の活性化、関係人口や定住者の増加にもつながっていきます。

未来で輝く人材の育成

有田みらいタウンを中心としたこれらの取組においてのデジタル化は、コミュニケーションを築き上げるための手法です。デジタル技術で都市との情報格差を解消し、ポータレス化を目指します。伝統と文化、豊かな自然と人間らしい「あたたかさ」を大切にしたい、若い世代が誇りに思うまちづくりを実現します。このために有田町らしいSTEAM教育を展開していきます。

ウィズコロナ、ポストコロナを見据えたSTEAM教育を推進します。正解のない時代に求められる「自分なりの答えを探る力」を、STEAM教育を通して学んでいただき、未来で輝く人材を、数多く送り出すことのできる有田町を実現します。本町の取組が全国の町村の参考事例として活用いただければ幸いです。

有田町長 松尾 佳昭

町村

ご当地キャラじまん

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

Vol.93

東
ブ
ロ
ッ
ク

ご当地自慢のおいしいものや伝統行事を身にまとい、
体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。
今回は、東ブロック(北海道・東北・関東)からピックアップ。

山梨県身延町

秋田県小坂町

千葉県九十九町

2017年、町内外へ小坂町をPR
することを目的に、町民にも愛される
ようなマスコットキャラクターを公募
しました。町内外の幅広い年齢層から
159作品の応募があり、選考検討会
議で5点を選定。その後、「こさかまち
マスコットキャラクター選抜総選挙」
を実施し、町内の各世帯、小中学校の
児童生徒に投票してもらい、最多得票
で決まったのが「かぶきん」です。町
内の観光名所であり、国の重要文化財
の明治の芝居小屋「康楽館」にちなんで、
歌舞伎役者のいでたちをし、頭には町
の花・アカシアをつけています。「かぶ
きん」からアカシアの花や葉を渡され
ると、幸運が訪れるのだとか。「やや
...!」「〇〇屋!」が口癖で、語尾に「ご
ざります」とつける話し言葉の「かぶ
きん」。町内外のイベントに参加しな
がら、町のPR活動を行っています。

かぶきん

秋田県小坂町

小坂町マスコットキャラクター



1910年8月13日生まれ。明治の芝居小屋「康楽館」が建てられた時に生まれた精霊。人気者になりたくて、「康楽館」の演者を真似して今の姿になったため、歌舞伎役者ではない。目立ちたがり屋で、嬉しいと、決めポーズ(見得)をする。

くくりん

九十九町公認イメージキャラクター

千葉県九十九町

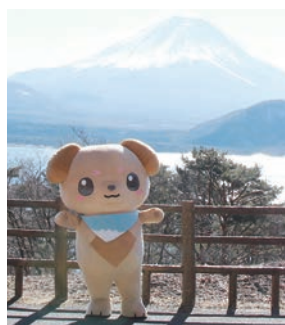
2013年に町商工会青年部が中心
となって進められた九十九町イメー
ジキャラクター制作事業で公募を実施
し、応募総数648点の中から準備委
員会が3点に絞った上で、町民投票に
よって選ばれたのが「くくりん」です。
実は、「ウエーブキャット・くじゅうく
りん・クリスティーにゃ」が本名の
のだとか。町内で開催されるイベント・
行事には積極的に参加し、特に、4月
29日の海開き式や8月第1土曜日開催
のふるさとまつり、11月3日の産業ま
つり、元旦祭などには毎年参加し、町
民や観光客と交流しています。九十九
里町が「いわし」「はまぐり」が特産の
町であること、通年サーフィンを楽し
めることを広くアピールするために、
語尾に「〜にゃ」とつける話し言葉で、
魅力発信に努めています。



9月9日生まれ。甘えん坊で人懐っこい性格。趣味は、始めたばかりのサーフィン。好きな食べ物は「いわし」「はまぐり」「にゃがらみ(なまがらみ)」。祖父は伝説の「にゃーふぁー(猫のサーファー)」らしい。

みのワン

ワンだふるPR課長



3月1日生まれの「1(ワン)歳」。マメな性格だが、ワンはくでいたすら好きで、あざとかわいい。特技は大豆の選別、ハンコづくり、ゆばづくり、紙漉きなど。趣味は畑仕事と食べ歩き。しっぽを触られるのは苦手。

山梨県身延町

「町長を囲んで語り合おう2019」
で、小学生から「町のキャラクターを
作って、多くの人に身延町を知って
もらいたい」との提案があり、2020
年にキャラクターデザインの一般公募
を実施しました。応募総数2068作
品の中から、選考委員会が5作品を
厳選し、最終選考の町民投票で誕生した
のが「みのワン」です。ぬいぐるみや
ピンバッジなどのグッズは、あまりの
人気に数日の内に完売するほどです。
町内の企業とのコラボ商品も続々と増
えており、お披露目からたった1年で、
町民はもとより県外のみならずからも
愛されるキャラクターになりました。
語尾に「〜ワン」とつける話し言葉で、
ツイッターやフェイスブックなどでも
活躍しています。

ワンだふるPR課長は、身延町のナ
ンバーワン、オンラインワンのPR活
動に励んでいます。

次回は、中ブロック(北信・東海・近畿)からご紹介します

随 想

世界中がコロナ禍に振り回され早2年が過ぎました。誰もが早期に収束すると思っていました。誰かが早く手強い相手です。デルタ株が落ち着けば今度はオミクロン。矢継ぎ早で社会生活や経済活動が大きく制限され閉塞感漂う社会となりました。マスクも常につける毎日。「マスク顔、みんなイケメン・べっぴんさん」こんな川柳までありました。個人的には神が私たちに「文化的



な生活を享受するあまり自然の摂理をないがしろにしていなか」と警鐘を鳴らし、人類に試練を課しているようにさえ思えてしまいます。

飲み菓の販売が待たれるところですが、三密回避など基本的な対策を徹底しながら三回目のワクチン接種を完遂する事が急務と心得、特にご高齢の方が罹患しないよう努めてまいります。

さて、そんな中1月9日に町主催の『成人式』を行いました。コロナ禍により開催できなかった昨年分と本年分を午前・午後に分け二部構成で開催しました。前日には抗原検査キットを参加者全員に配布し、当然のマスク着用など万全を期しての決行でした。

私は正直、今の時代、私たちとは少し違う感性や価値観を有する若い人たちだから、どこか冷めた気持ちで義務感で出席するのだろうと思っていました。

ところがさにあらず、式典は背すじの伸びた凛とした若者のかもし出す心地よい緊張感の中で行われ、代表より、「久万高原町に生を受け、かけがえのない自然の中で、両親はもちろん、周りの人々に支えられ無事二十歳を迎えることができた。感謝の心を忘れず、大人になった自覚を胸に社会の一員として頑張りま

す。」との力強い謝辞がありました。出席者の輝くまなざしに頼もしさを覚えると同時に、若い人たちに魅力を感じてもらえる町づくりへの責務を一層強くしたところです。感慨深い一日となりました。

2月20日、17日間にわたって繰り広げられた北京冬季オリンピック、政治の影もちろりと感じさせながらも多くの感動を私たちにもたらし閉幕しました。

日本選手団の活躍も見事なものでしたが、特にスピードスケートの高木美帆選手の活躍には誰もが拍手を送ったことと思います。得意の1500mではあと一步頂点に届かず、結果に耐える姿は見ていた私たちにもつらいものでした。

実は手前味噌で「親バカ」とお思いでしょうが、私の二女が高木美帆選手と瓜二つで、私の妻などはテレビ画面に向かって「麻子頑張れ!」と娘の名前を叫んでいました。銀メダルに終わった時は、似ていることを自覚している娘から「ゴメン。」とのラインが届きました。

最後の1000mで金メダルに輝いた時の高木選手の喜びと、責任を果たせホッとした笑顔は格別でした。

そしてインタビューに応えた彼女の「自分で限界を作らない。」「これ

からのことは、私が決めるのではない、湧き上がってくるもの。」と、哲学者然とした受け答えに苦難を努力で乗り越えてきた誇りを感じ、スポーツの持つ無限の力をあらためて思ったことでした。

地方は今、早いスピードで進む人口減少にどう対峙すればよいかの悩ましい課題に直面していますが、一方で都市部の特に若い人たちの間で「コンクリートジャングルの中で、ストレスを感じながら生活するより自然豊かな田舎で頑張りたい」と、自然回帰の考え方が浸透し始めている。ここ数年、移住の皆さんが増えてまいりましたし、地域おこし協力隊の方にもさまざまな場面で活躍いただいています。また、『カーボンニュートラル』のことばに代表されるようにCO₂の固定化に寄与する森林の持つ機能に大きな期待が寄せられています。

農業が基幹産業の我が町の可能性を大いに感じています。全国中山間地の皆さんと連携を取りながら「地方の時代」の実現に向けて頑張つてまいります。

ご一読いただきありがとうございます。

さまざまな「集いの場」を 演出いたします

広さと設備が多様な大ホールと、
3つの会議室がございます。
会議・研修、パーティーなどに
幅広くご利用いただけます。



和・洋食のレストランも お気軽にご利用ください

全国町村会館には、
会議室・宴会場のほかに、
ふたつのレストランもございます。
お気軽にお立ち寄りください。



レストラン「ペルラン」

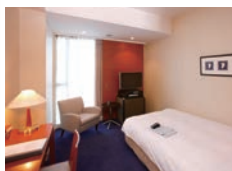


和食処「さいち」

客室のご案内

SINGLE
ROOM

シングル
119室



DOUBLE
ROOM

ダブル
12室



TWIN
ROOM

ツイン
18室



和室もございますのでお問い合わせください。

※市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。

■ご予約・お問い合わせ



全国町村会館

TEL.03(3581)0471

FAX.03(3581)0220

〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号

ホームページアドレス <https://www.zck.or.jp/kaikan>

●全国町村会館へのアクセス

- ・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
- ・丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
- ・タクシー東京駅から約20分

